

法人	社会福祉法人光朔会 オリμπア	報告者	常務理事 山口 幸
基本方針			
イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、「その人らしく」光輝いて暮らすことができる社会を実現する。			
運営方針			
1. 総合的な福祉活動の展開 2. 新しいケアへの転換 3. 福祉の啓発活動の展開 4. 地域、他団体との協力 5. キリスト教主義の福祉活動の展開 6. リーダーシップの確保と向上 7. 海外との交流 8. 健全な財政運営			
概要			
<p>法人創設より20年目となる2015年度は、社会福祉法人光朔会オリμπアにとって、大きな節目となる年である。</p> <p>2015年4月に認知症高齢者グループホーム「オリμπア篠原」をオープンすることにより、高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域で安心してこれまで通りの暮らしを送るための選択肢をひとつ増やすことができる。また、発達障害児を抱える方々が「その人らしく」学び、働くことをサポートするための取り組みを拡充させていく。これにより、オリμπアの目指す「誰もがその人らしく輝いて暮らすことのできる社会づくり」にさらなる貢献をすることが可能になる。これら取り組みをより具体化するために、オリμπアの理念を実践することができる人材を確保し、その育成に注力する。</p> <p>また、オリμπアの取り組みをより多くの方に伝えるために、インターネットや新聞・雑誌等のメディアを活用したPR活動も積極的に行う。日々目まぐるしく変化する社会状況に対応するためにも、常に新しいアイデアをアクションに移していくことにより、新たな福祉のムーブメントを起こしていきたい。2015年度の介護報酬改定に対する対応等、様々な課題は抱えているが、初心を忘れず、常に新しいことにチャレンジし続けることができる、新しいオリμπアを目指す1年としたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 総合的な福祉活動の展開 [多機能] : 高齢者事業部門・保育事業部門・社会事業部門・法人本部の働きを一層充実させ、オリμπアの目指す「小規模・多機能・地域密着」の総合的な福祉活動をさらに前進させる。</p> <p>2. 新しいケアへの転換 [小規模] : 従来の大規模・画一的なケアではなく、入居者・利用者・園児ひとりひとりがその人らしく輝くことができるように、家庭的な環境の中で小規模・個別的な新しいケアを実践する。</p> <p>3. 福祉の啓発活動の展開 [地域密着] : オリμπア福祉塾講座、高齢者と介護者の教室、認知症高齢者や発達障害児の理解を深めるための講演会を開催、あるいは講師として参加することにより、地域福祉の啓発に貢献する。</p> <p>4. 地域、他団体との協力 [ネットワーク構築・国際交流] : 日本聖公会・YMCA・各大学や大学院・ロータリークラブ行政・社会福祉協議会・医師会・自治会などとの協力関係を強化し、よりよい福祉活動につなげる。</p> <p>5. キリスト教主義の福祉活動の展開 [キリスト教社会福祉] : 各部門における毎朝の礼拝、職員礼拝の充実を図るとともに、クリスマス・イースター・ペンテコステなどのキリスト教行事を積極的に実施し、キリスト教の理解を深める。</p> <p>6. リーダーシップの確保と向上 [資質の向上] : 内部研修の実施および外部研修の受講より、職員・ボランティアの資質の向上に努める。また、実習生を積極的に受け入れることにより、次世代の福祉の担い手を育成する。</p> <p>7. 海外との交流 [国際活動] : リンネ大学(スウェーデン)との協働により、海外研修を実施する。また、香港・台湾・ベトナムなどのアジアの国々との連携を密にし、これからの世界の福祉の情勢の分析を行う。</p> <p>8. 健全な財政運営 [健全財政] : 収入の増加、支出の見直しを実施し、健全な財政運営に努める。</p>			

施設	特別養護老人ホーム オリンピア	報告者	施設長 太西 裕二
事業目標	1. 地域における福祉拠点としての役割を果たす 2. 安定した財政基盤の確立 3. 法人内および他団体とのネットワーク強化 4. 新規プロジェクトの展開 5. 人材の確保と育成		
概要			
<p>一つの区切りである20年目に突入する今年。地域の一員としての役割だけでなく、地域福祉の牽引役としての役割を意識した活動を展開していかなければならない。そのためにも、まずはサービスの質を向上させ、これまで以上の利用者を獲得し、財政基盤を安定させることに取り組んでいく。その上で、地域ニーズ、社会ニーズに合わせ、現在必要なサービスのみならず、これから必要になるであろうサービスを、他に先駆けて実践していくことを、目標とする。その為にも、幅広い人材の確保、ネットワークの強化、社会動向の把握が大きな課題となってくる。また、20年を前に、ハード面でも将来を見据えた拡充を図り、大規模修繕や設備の更新なども検討・実施していく。</p>			
事業計画			
<p>1. 複合施設であること。地域包括視線センターを運営していること。幅広い事業展開をしている法人であることなど、今持っている強みを活かしながら、地域に求められるサービス展開を行っていく。その上で、『介護』や『高齢者』というカテゴリーにとらわれない福祉活動の展開を実践する。そのためにも今後社会福祉法人に求められるであろう地域貢献活動や、非常災害時の福祉避難所としての役割、そして新しい地域コミュニティの創造に繋げていく土台作りを行う。具体的課題としては、地域給食会『おりんぴあ食堂』の継続と発展。介護者教室の定期開催。小中高校での啓発活動などがあげられる。</p> <p>2. 介護保険法の改正や大規模修繕の必要性など、収支両面において非常に厳しい状況ではあるが、各事業部門がそれぞれで数値目標を達成できるよう努力しながらも、拠点会計を意識し、収支においての役割分担を行うことで、得るところで得、出すところを出す。その為にも、各部門がそれぞれの強みと弱みを共有し、強みを活かし弱みをカバーし合う事業展開を目指す。</p> <p>3. 多様化するニーズに対応すべく、拠点各事業部門はもちろん、法人内各施設および他団体とのネットワークを強化し、拠点内での完結だけを考えず、多くの社会資源をうまく活用していく。これにより、よりきめ細やかなサービスの提供を実現する。</p> <p>4. 年度を通して継続できた地域給食会やあんしんすこやかセンター主催の介護リフレッシュ教室など、これまで実施してきた新規プロジェクトのさらなる展開を実施すること。そして、利用者および地域のニーズに合わせた新規プロジェクトの展開をおこない、社会貢献を行うと同時に、外部へ向けたPR機会として捉え、オリンピア発信の情報を増やしていく。</p> <p>5. 上記項目の計画を実現するために、幅広い知識と経験をもった、人間性豊かな人材の確保と育成を行う。人材確保については、大学・高校・専門学校などから、よりよい人材を早期に確保できるよう常時連携を強めていく。また、小中学校との連携も強め、『介護職』『福祉職』が憧れになるような啓発活動を行っていく。こうして確保した人材を、体系だった研修の実施やこまめなコミュニケーションとアドバイス、そしてメンタル面でのサポートを強化しながら、強みを更なる強みに、弱みを個性にかえていけるような人材育成を行う。</p>			

事業計画

2015年度

施設	オリンピア	部門	特別養護老人ホーム	報告者	太西 裕二
事業目標	1. オリンピアの理念の遵守 2. 健全な財政基盤の確立 3. 地域に開かれた施設づくり 4. 豊かな人材確保と育成の強化 5. 新規プロジェクトへの挑戦				
事業計画					
<p>1. 利用者の『思い』や『ニーズ』に耳を傾け、『その人らしい』ケアを実現するという、オリンピアの理念を遵守していく。その為にもスタッフ一人一人の資質向上はもちろん、チームの成熟を課題とし、常に根拠に裏付けられたケアを実践していく。2. 特養・ショートにおいては、年間利用率102.5%を目標とし、主要事業による収入を確固たるものとする。改正介護保険法を熟知し、提供できるサービスを全て提供していく。また、社会貢献事業などの新規プロジェクトなど新たな収入創造を実践し、財政基盤の安定を図る。3. 法人としての社会貢献事業の実施を踏まえ、地域に開かれた施設づくり、および地域に求められる施設づくりを行う。昨年より継続している地域食事を始め、各種講演会や勉強会などの開催、近隣教育機関との連携などを行い、サービスの充実と人材育成に繋げていく。4. 高校・大学・専門学校はもちろん、小中学校との連携を深め、介護をになう人材の発掘と育成を早い段階から推し進めていく。また、啓発活動などを通し、考え動くことの出来る人材育成に努める。5. 社会の動向や地域性を十分に研究しながら、求められるサービス、これから求められるであろうサービスの創出に取り組んでいく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピア	部門	デイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者数7,380人(28.5人/日)を目指す 2. コストカットに努める 3. 質の高いサービスを提供する				
事業計画					
<p>1. 年間利用者数7,380人(28.5人/日)を目指す:毎月予算計画に沿って達成出来る様に質の高い介護サービスを提供する。「おりんぴあ食堂」等の広報活動を強め、新規利用者獲得を目指す。また、基準該当サービスで障害者の方にも喜んで頂けるサービスを提供する。</p> <p>2. コストカットに努める:介護報酬改定による影響で、一人あたりの単価が下がることは確実である為、コストカットに力を注ぐ。スタッフの人員をマイナス1名、シフトの見直しによる業務時間短縮、MKタクシーのドライバー依頼を減らす等の工夫により、出来るだけコストカットに努める。</p> <p>3. 質の高いサービスを提供する:上記のコストカットに伴い、業務内容及びリスクマネジメントの情報共有を徹底する。オリンピアの理念に基づき、職員の意識向上に努める。研修会や他機関との交流を通して得た情報を活かし、利用者・家族のニーズに沿ったケアを実施する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピア	部門	サテライトデイサービス	報告者	前埜 久男
事業目標	1. 年間利用者平均12.8人を目指す。 2. 月・火・水・金曜日は登録18名以上を維持および目標に、木曜日は登録10名以上を目指す。				
事業計画	<p>1. 年間利用者平均12.8人を目指す。:2014年度は年間利用者平均12.4人となる見込みである。前年度が11.28人であったので1名以上の増加となった。2014年度始めから長期欠席者がかなり少ない状況だったこと、2014年度前期より後期の方が利用者平均が増加したことから、上記のような目標を設定した。2014年度出席率は高い水準で安定しており、特に火曜日では登録数18名に対して16.8名の出席率となる見込みである。また2014年度は外出行事を最小限にし、集会所での活動に重点を置いた。2015年度も同じ方針ではあるが、各曜日の利用者から外出行事の要望が多々出ているので、公共交通機関を利用するなど工夫して外出行事を行っていく予定である。</p> <p>2. 月・火・水・金曜日は登録18名以上を維持および目標に、木曜日は登録10名以上を目指す。:2014年度末の登録見込みは水、木曜日以外は18名以上となっている(水曜日16名、木曜日8名)。定員は食事の関係上20名だが、昼食を食べずに利用される方も含めれば若干上乗せすることも出来る。この目標を達成することが出来れば自ずと年間利用者平均の目標も現実的に近付くため、達成に向けて邁進していく。</p>				

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピア	部門	居宅介護支援事業所	報告者	渡邊 千恵
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 認定調査の資質向上を図る 3. 質の高い居宅介護支援 4. 介護予防マネジメントを行う 5. 介護支援専門員の資質向上を図る 6. 自己評価を行う				
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立:要介護者プラン件数年間800件、要支援者プラン件数年間110件を目標とする。</p> <p>2. 認定調査の資質向上を図る:認定調査の研修に参加する。また、神戸市eーランニングを活用する事で認定調査の資質向上を図る。</p> <p>3. 質の高い居宅介護支援:月1回は自宅訪問を行い、状況把握し、モニタリングを行う。また、住み慣れた地域で在宅での生活が安全に継続できるように援助し、見守っていく。介護保険以外の地域支援サービスも組み入れていく。</p> <p>4. 介護予防マネジメントを行う:あんしんすこやかセンターから委託を受け、計画書を作成する。あんしんすこやかセンターが行う事例検討会に参加する。</p> <p>5. 介護支援専門員の資質向上を図る:研修に参加する。社会資源を活用し、情報の収集に努める。</p> <p>6. 自己評価を行う:自己評価シートで改善の必要のある項目に関しては改善に向け取り組んでいく。</p>				

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア	部門	地域包括支援センター	報告者	太田 直樹
事業目標	1. 高齢者やその家族が安心して相談のできる窓口としての認知をさらに高める 2. 地域ケア会議等を高齢者と地域をつなげる役割やネットワークづくりと安心して住める地域づくりを支援する。				
事業計画	<p>1. 安心して相談のできる窓口としての認知度を高めるために、積極的に地域行事への参加を行い、圏域内事業所および金融機関や各種店舗等を毎月訪問し、あんしんすこやかセンターの告知および高齢者介護に関する情報を継続的に提供する。</p> <p>2. 地域ケア会議を開催し、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、安心して暮らしていくために、関係者のネットワークづくりを広げ、地域包括ケアシステムの構築に寄与する。高齢者が元気に参加することのできる場所や機会等、地域資源の発掘や新規開拓、新規立ち上げなどに関して、地域を支援する。</p> <p>今後、増加する認知症の方の理解や支援も、認知症サポーター養成講座の開催や、認知症サポーター店の新規に3つ開拓するなどを通して地域に関わっていく。</p> <p>3. 民生委員や老人会、婦人会など、高齢者に関わる地域の人的資源の新たな発掘や、ネットワークづくりを推進するための資質を向上するために、神戸市が主催する研修の受講や、コミュニケーション能力の向上など人と人とを結ぶ仲介者としての役割が遂行できる能力や知識の獲得、専門知識の習得に努めていく。</p>				

施設	グループホームオリンピア灘	報告者	管理者 上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者の生活の質の向上 3. 地域との交流 4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践		
概要	<p>オリンピア灘は、介護に関する相談窓口として居宅介護支援事業所、通い・憩いの場として通所介護、生活の場としてのグループホームと、住み慣れた地域で継続してケアを受けることができる。そのために、「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念のもと、利用者ひとりひとりの「そのひとらしさ」を大切に、利用者の可能性を最大限に引き出すケアのあり方を日々見直し、より質の高いケアの実践に取り組んでいく。また、より適切に地域のニーズに応えることができるように、地域に開かれたホーム、地域に根ざしたホームとして、認知症ケアの情報の発信源となり、情報を発信し続けていく。更に、昨年度開所した「オリンピア鶴甲」、今年度開所予定の「オリンピア篠原」との協力体制を密にして、灘区の高齢者ケア、認知症ケアの拠点となることを目指していく。</p>		
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立：収入の安定を図り、事業運営を円滑にする。そのために、入居者、利用者の利用率を高めるとともに、体調の変化による入院等のリスクを減らし、安定した利用率をキープする。常に入居者・利用者ひとりひとりの状態を的確に把握し、迅速に対応する。また、制度改革等に際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集を行い迅速に対応していく。様々な情報に対してアンテナを張り巡らせ、新たな収入源の可能性についても検討する。</p> <p>2. 利用者の生活の質の向上：「生活の主人公」である利用者が、一日一日をその人らしく充実した生活が送れるようお手伝いする。日々の何気ない会話の中から利用者の「したいこと」「できること」を的確に把握し、職員間での情報の共有を図る。また、グループホームに入居していても、夢を諦めるのではなく、新しいことにチャレンジしていただけるように、支援を行う。さらに、グループホームのユニット内で実施している「共用型デイサービス」のメリットを活かし、入居者と利用者との関係づくりに取り組む。その他、入居者・利用者の夢や希望について情報収集を行い、旅行やふるさと訪問など、「夢のプロジェクト」にもチャレンジしていきたい。</p> <p>3. 地域との交流：日々の散歩や買い物等の外出を積極的に行うとともに、地域で行われる行事にも参加する。またSalon de l'Olympia Nada等のプログラムを通して地域の方をお迎えし、地域の一員としての役割を果たしていく。常に様々な情報を発信し続けることによって、地域から必要とされ、地域に開かれたホームとなれるように努める。そのために、居宅介護支援事業所は、地域の方々の介護に関する相談窓口として、地域のニーズに迅速に答えていく。また、高齢者だけではなく、幼児から大人まで様々な方々に気軽に入出入りできるようなホームを目指す。さらに、実習生・ボランティア・見学者の受け入れも積極的に行う。</p> <p>4. スタッフの資質向上「オリンピア灘の理念・3つの約束」の実践：スタッフ全員が「オリンピア灘の理念・3つの約束」を理解し、ケアする上での礎とし、日々理念に基づいたケアを実践する。また、オリンピア灘での取り組みやその成果を、「新しいケア」としてさまざまなメディアを通じて外部に発信する。またスタッフ全員がそれぞれのキャリアや希望によって積極的に法人内外の研修に参加し、スキルアップを図ることができるように支援する。特に、リーダーが中心となって実施しているパーソンセンタードケアの勉強会を継続し、認知症ケアを理論の面からも学ぶことによって、よりよい実践につなげる。</p>		

事業計画

2015年度

施設	オリンピア灘	部門	グループホーム	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 入居者が主人公となる生活の場の構築 2. 職員のスキルアップと育成 3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動 4. 財政基盤の確立				
事業計画					
<p>1. 入居者が主人公となる生活の場の構築:「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念を日々実践していく。入居者おひとりおひとりの意向やメッセージをしっかりと受け止め、叶えていくお手伝いを行う。定期的なカンファレンスにより、理念に沿ったケアができているか振り返り、おひとりおひとりの更なる成長へつながっているか評価する。</p> <p>2. 職員のスキルアップと育成:職員は得意分野ではリーダーシップを取り、不得意なところはチームでフォローし合える環境を作る。共に学び、成長し合うという環境を作り、職員全員が誇りと自信を持って働けるようにする。リーダーはスタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握し、チーム全体で課題を解決していく。</p> <p>3. 地域交流の活性化・認知症ケアに関する啓発活動:オリンピアに携わるすべての人々が、希望の光として輝き、地域に出かけ、「高齢になっても今まで通り誇りを持って安心して暮らせる生活」ができることを実証していく。また、地域に向けて認知症理解に向けた講演会を行う。また、各種イベントを通して啓発活動を行っていく。</p> <p>4. 財政基盤の確立:年間稼働率97%を目指すため、入居者おひとりおひとりの小さな変化に気づき、早めの対応を行い、入院を未然に防ぐ。日頃から支出を見直し、新たな収入源を得るため、新しいことにどんどん挑戦する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピア灘	部門	デイサービス	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立:年間利用平均2.0人／日以上を目標とする。登録実人数9名以上をキープできるよう、オリンピア灘居宅介護支援事業所や地域の居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター等へのPR活動を継続的に行う。また、全職員が「コーポレート・アイデンティティ」を共有し、職員全員が情報の発信源となる。</p> <p>2. サービスの質の向上:共用型デイサービスであるオリンピア灘がその特徴を最大限に発揮し、お友達の家遊びに行く感覚で利用していただき、入居者の皆様と一緒に、家事や外出等様々なことを日常的に行っていたいく。利用者おひとりおひとりのアセスメントをしっかりと行い、生活歴を把握し、利用時に活躍していただける場を準備する。入居希望の方には入居者、スタッフとの馴染みの関係を作っていただく期間とし、入居された時に、今まで通りの生活を安心して続けていただけるよう、オリンピア灘での生活を体験していただく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア灘	部門	居宅介護支援事業所	報告者	上野 鋭一郎
事業目標	1. 新規利用者の獲得と健全な運営 2. 介護支援専門員としての資質や技術の向上 3. 地域、他事業所との交流				
事業計画	<p>1. 新規利用者の獲得と健全な運営:毎月あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所等に営業を行い、新規利用者の獲得を行う(毎月1名以上の新規利用者獲得)。新規利用者の獲得により、収入の増加を図り、健全な運営を行っていく。</p> <p>2. 介護支援専門員としての資質や技術の向上:内部、外部で実施される研修に積極的に参加し、介護支援専門員としての資質や技術の向上に努める。また、内部、外部問わずに交流を持つことにより、介護保険制度等の情報収集に努める。</p> <p>3. 地域、他事業所との交流:圏域のあんしんすこやかセンター連絡会、地域の見守り連絡会等に参加し、灘区内の社会資源を知り、担当利用者の生活の質の向上に繋げていく。地域住民や他事業所が集まる場への積極的な参加により、オリンピア灘、篠原、鶴甲の広報を積極的に行い、地域の方々や他事業所へのオリンピアの認知度を高め広めていき、灘区での各事業拠点がオリンピアとなるように努める。</p>				

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア兵庫	報告者	館長 山口 幸
事業目標	1. 「小規模多機能ケア」の確立 2. 広報活動の強化 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要			
<p>2014年8月に10周年を迎え、2015年度はオリンピア兵庫にとって今後の方向性を定める重要な年度となる。</p> <p>これまでの取り組みをふり返り、検証し、土台を確固たるものにした上で、新たな一歩を踏み出すことが求められる。</p> <p>そのために、「利用者ひとりひとりの"その人らしい"暮らしのために」という理念にもう一度立ち返り、ケアのあり方、組織のあり方を徹底的に見直していく。スタッフひとりひとりの能力に頼るだけでなく、長期的に効率的、安定的な組織運営ができるように、人材育成およびシステムづくりに注力する。また、積極的な地域交流や地域に開かれたイベントを行うことにより、オリンピアのアクションが人と人とを繋ぎ、地域を動かしていくことができるように、固定観念にとらわれることなく、新しいことへのチャレンジを続けていきたい。</p>			
事業計画			
<p>1. 「小規模多機能ケア」の確立:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることを可能にすることが、小規模多機能ケアの本質である。オリンピア兵庫は、小規模多機能型施設のパイオニアとして、「小規模多機能ケア」本来のあり方を追究する。具体的には、グループホーム・ショートステイ・デイサービスの連携を強化することにより、複数サービス利用者の増加に繋げるほか、それぞれのユニットがビジョンを持ち、切磋琢磨しながら、より高い質のケアの実践に取り組む。</p> <p>2. 広報活動の強化:「オリンピア兵庫」の認知度を向上させ、各サービス利用者を確保するため、広報・PR活動を強化する。具体的には、新聞・雑誌・テレビ等各種メディアに対して積極的にプレスリリースを発出するほか、地域へのポスティング、戸別訪問を実施する。また、スタッフひとりひとりが積極的に外部の組織に参加し、人的ネットワークを拡げることにより、オリンピアの取り組みをより多くの人に浸透させる。さらに、Salon de l'Olympiaなどのイベント、Cafe Olympiaを活用することによって地域に開かれた施設づくりを行うほか、ボランティアや実習生、見学者などを積極的に受け入れることにより、地域への啓発活動にも努める。</p> <p>3. 財政基盤の確立:安定した施設運営を行うために、財政基盤を確立する。時代状況の変化、制度改正などに際しても安定した収入が確保できるように、徹底的な情報収集と迅速な対応を行うとともに、新たな収入源の可能性についても検討する。また、徹底したコストの見直しを定期的実施することにより、効率的な運営を目指す。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦:地域の声に常に耳を傾け、いまオリンピア兵庫の力が必要とされているニーズに対して、積極的に新しいプロジェクトを立ち上げていく。プロジェクトメンバーには若手の人材から思い切った登用を行い、将来のステップへの備えとする。</p> <p>5. 人材の育成:オリンピアの目指す新しいケアのあり方に従来マニュアル的対応は通用しない。自ら考え、判断し、適切な行動を取ることができる人材、そのスタッフを育てる人材が必要である。そこで、スタッフひとりひとりの現在の状態、課題を的確に把握するとともに、それぞれのステップに応じた研修を積極的に実施する。また、仕事の場以外でも自分を磨き成長させることができるようなチャンスを提供する。特に、ユニットリーダー以上のポジションのスタッフには、自分の後継者を複数育成することを課し、継続できる組織づくりを行う。</p>			

事業計画

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	グループホーム	報告者	市田 恒夫
	1. ケア理念の遵守「生活の主人公は利用者ご本人です。」 2. 地域に密着した運営を行う。				
1. ケア理念の厳守「生活の主人公は利用者ご本人です。」 ○ユニットビジョンを明確にし、「生活の場」にふさわしい環境作りを行う。 ○入居者お一人、お一人を「よく知る」ことにより、持てる能力を最大限に発揮しながら生活をしていただくことができるような「お手伝い」をする。 ○グループ・ダイナミクスの効果を生かし、入居者お一人、お一人に役割や責任をもっていただき、「生活の主人公」としてふさわしい生活を実現する。					
2. 地域に密着した運営を行う。 ○運営推進会議の内容の充実を図る。 ○地域各種団体との連携をはかり、地域行事等の参加を積極的に行う。 ○地域の学校・幼稚園等との交流を図り地域に根ざした、活動を行う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ショートステイ	報告者	長谷 順二
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの向上 3. スタッフの資質の向上 4. 地域に密着した運営				
事業計画					
1. 財政基盤の確立:年間利用率の目標を100%以上として、常に高い収入を確保するとともに余裕をもった状態を維持できるように目指す。予算を達成していくとともに、各入所部門の中継地点としての役割を掲げ、ご利用者の状態に合わせて円滑に入所部門へ繋いでいくことで、法人全体の収益を底上げしていく。					
2. サービスの向上:パーソンセンタードケアを基盤としたご利用者お一人お一人に合わせたケアを実現。ご利用者ご家族からの希望や訴えに即時対応を行い、外出や行事を企画していくことで、安心した生活ができることと今までの生活の生活を継続することで充実感、達成感を実感していただく。					
3. スタッフの資質の向上:光朔会の理念や歴史を学び、全ての職員が光朔会の一員であることを自覚し、プロとしての責任を持って行動する。内外の研修、講演会などに積極的に参加することで幅広い視野と知識を身につける。それによってスタッフ自身の身幅を広げ、社会人としての成長を図る。					
4. 地域に密着した運営:地域の商店やイベントを利用し、地域の方々との関係を築いていく。各種行事に地域住民を招待し、地域に開かれた運営を目指す。地域に根ざしているcafé事業などを活用し情報発信を行う。					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	デイサービス	報告者	清田 忠弘
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域との密着 3. 人材育成の強化 4. 教育事業の継続実施				
事業計画					
1. 2015年度収入予算の達成へ向けた利用者確保					
区役所が主催する地域ケアネット活動との連携を深めて行く					
改正介護保険法への理解を深め必要な単位数を確保する					
2. 地域との密着					
2016年度から地域密着型移行を見据えた地域コミュニティ拠点造りを推進する					
3. 人材育成の強化					
法人内他施設との交換研修制度を確立し、連携を強化する					
研修、実習生の受入を通して、自己研鑽を行う					
4. 教育事業の立ち上げ					
初任者研修事業を継続実施し、この活動を通じて対外的にオリンピアの考え方を広める					
人材確保の一環として初任者研修を利用する					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピア兵庫	部門	ホームヘルプ	報告者	中村 文香
事業目標	1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践 2. 他部門との連携強化 3. ヘルパーの養成 4. 保険外サービスの具体化				
事業計画					
1. 地域で暮らし続けるためのケアの実践：ヘルパーによる支援がただの家事労働の延長ではなく、家事援助を通じた生活密着型の支援であり、それによってご利用者はその日常生活を回復し、みずからの生活イメージを取り戻して、自らの生活設計に取り組むことを可能にするようなケアを目指す。					
2. 他部門との連携強化：ヘルパーによる支援は「関係性」の中で展開される。同じ施設内のサービスを使って頂くことで、情報共有もスムーズになり、顔を合わせる機会も増えるため、安心してサービスを受けて頂くことが可能になる。居宅系サービスの3部門が協力し、兵庫全体で総合的なサービス提供を行う事で、ご利用者により安心して、サービスを利用していただく。					
3. ヘルパーの養成：介護職員初任者研修の実施によりヘルパー業務に携わることのできる人員を確保する。また、定期的に実践レベルでの研修を実施し、現場でのケア・サービスの質の向上をはかる。					
4. 保険外サービスの具体化：介護保険ではカバーできないサービスや、非該当にあたる高齢者の方に対する家事代行サービス・外出サービスなどを展開し、保険外収入を確保する。					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピック兵庫	部門	居宅介護支援事業所	報告者	園田 明
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 地域、他事業所との連携強化 3. ケアマネジャーとしてのスキルアップ 4. 新規利用者の獲得 5. 利用者の尊重				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立:2015年度の収入予算を達成する。支出にも留意し、法人の財政基盤の確立に貢献する。</p> <p>2. 地域、他事業所との連携強化:地域、あんしんすこやかセンター、他事業所との関係づくりをより強固に行っていくことで、利用者の安全な在宅生活に繋げていけるように努力していく。地域資源の発掘と活用に取り組み、利用者の生活の質を向上できるようにする。</p> <p>3. ケアマネジャーとしてのスキルアップ:外部、内部を問わずに様々な分野の研修や勉強会には積極的に参加し、介護保険制度の理解を深め、ケアマネジャーに必要な知識を得て、スキルアップに繋げていくよう努力する。</p> <p>4. 新規利用者の獲得:要介護、要支援の利用者を積極的に受け入れる。相談を親身に行い、利用者家族が安心して在宅生活を送れるように支援を行っていく。</p> <p>5. 利用者の尊重:利用者の希望する生活が維持できるよう、毎月のアセスメントによって適切なサービスを導入する。利用者一人一人のニーズに合わせ、多(他)職種との連携を図り、柔軟な対応を行う。</p>					

施設	オリンピア都保育園	報告者	園長 三好 美佐子
事業目標	1. 保育内容の充実 2. 地域子育て支援の充実 3. 保育専門職としての資質向上 4. 関係団体との連携 5. 子ども子育て支援新制度への対応		
概要	<p>2015年4月より子ども・子育て支援新制度がスタートする。特定教育と保育を提供していくが、今まで見えにくかった養護と教育の教育部分を保護者、地域に理解していただくことが、今年度の大きなねらいとなっていく。</p> <p>オリンピアの理念に基づき、イエス・キリストの愛と奉仕の精神をもって、ひとりひとりが子どもらしく輝ける保育をおこなうなかで、子どもたちがどのように育っていくかということを様々な方法で発信していくがオリンピア都保育園の教育を知ってもらうことにつながると考える。また、地域の子育てを支える保育園として、継続利用者、新規利用者も増え、充実した活動を展開している。今年度は、利用者が将来的にどのように子どもを育てたいのか、どのような施設に預けたいのかというニーズ調査をおこない、これからのオリンピア都保育園のあり方を考えていく。</p>		
事業計画	<p>1. 保育内容の充実:子どもの育ちを支援するために、保護者の子育て観、思いを聞き取りながら、ひとりひとりの発達に応じた個別計画を立てていく。0歳児から5歳児の発達の連続性を意識し、あそび、生活のなかでその年齢が経験すべき活動を考えながら保育をすすめていく。職員の姿勢の見直しをおこない、子どもに接するときも環境構成を整えるときもいねいな言葉、態度を心がけ、愛をもって保育ができるようにする。そして、安心・安全な環境作り、事故や感染症予防の徹底をおこない、保護者にとっても安心して預けられる保育園を目指す。</p> <p>2. 地域子育て支援の充実:保育認定方法の変更、待機児童解消のための受け皿の増加により、一時保育利用者は減少傾向にある。仕事での利用者は減少していくと考えられるので、緊急を要する利用者、リフレッシュ利用者の獲得、充実を目指す。子育てサロンが定着してきたので、保育園が用意する保育の提供だけでなく、利用者の主体的な関わりができる内容も計画していく。灘区子育て応援プラザと連携して、地域の子育て支援の拠点となれるよう内容の充実をはかる。</p> <p>3. 保育専門職としての資質向上:新制度への移行にあたり、今までの保育所保育指針が幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に改定となる。内容の理解と実施していくため外部研修会の参加、内部研修会をおこなう。保育は人との関係性のなかでおこなわれているということ意識し、相手理解、コミュニケーション能力の向上を目指す。各々、経験年数や立場、役割に応じた目標とねらいを明確にし、PDCAサイクルを意識して保育をおこない、評価反省を共有し刺激を受けながら切磋琢磨していく。</p> <p>4. 関係団体との連携:神戸市私立保育園連盟、キリスト教保育連盟、聖公会保育連盟等の研修や事業に積極的に参加、参画する。養成校との連携を深め、実習生の受け入れ、指導をおこなう。次世代育成プログラムとして地域中学校・高校のトライやるウィーク、ワークキャンプ、ボランティアを受け入れる。地域にある保育園として、地域のお支えに感謝し、地域行事への参加、職員による地域清掃活動を引き続きおこなう。</p> <p>5. 子ども子育て支援新制度への対応:新制度にあたって保護者への説明をおこない理解を得る。幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の読みときと理解をおこなう。地域の子育て世帯のニーズ調査をおこない、オリンピア都保育園ができることはなにかを考えていく。</p>		

施設	オリンピア神戸北保育園	報告者	園長 中久木 康弘
事業目標	1.「キリスト教保育」の充実 2.「地域の子育て支援施設」としての働きの充実 3.「スタッフ研修」の充実 4.「地域及び関係団体との連携」の充実 5.健全財政の確立		
概要			
<p>法人基本方針「イエス・キリストによって示された愛を、すべての人々とともに分かち合い、神の栄光をあらわすために、誰もが夢や希望に満ちあふれ、その人らしく光り輝いて暮らすことができる社会を実現する。」に則り、神様によって創造されたかけがいのない存在として一人ひとりの子どもを受け容れます。子どもが「愛されている」喜びを感じながら、健やかに生活することによって、生きる基礎を培います。</p> <p>地域における子育て支援のために、保育に関する相談に応じ、社会的役割を果たす。</p> <p>職員礼拝の充実と聖書から学ぶ姿勢を整える。</p>			
事業計画			
<p>「キリスト教保育」の充実：子どもが安定した情緒を保ち、自ら遊ぶことを通して「自分で考え、主体的に行動する力」を獲得できるように、良い文化と環境を整え、援助する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権を守る(人間として大切にされていること) ・言葉を手渡すように話しかける ・日課と決まりによって、安定した生活を保つ ・支え、助けてくれる大人が寄り添う(育児担当制) ・子どもが自発的に取り組むことができる遊びの環境を創り出す ・良い文化、良い人間関係から、丁寧に大切に関わっている空気を醸し出す <p>「地域の子育て支援施設」としての働きの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力の下に家庭養育の補完を行い、子どもが健康かつ安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、健全な心身の発達を図る。 ・子育て支援事業のバリエーションを工夫し、充実させる。 <p>「スタッフ研修」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育の実践者としての外部研修の強化。 ・礼拝の充実と日常的に聖書からの学びの姿勢を整えるための工夫をする。 <p>「地域及び関係団体との連携」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域自治会等との関係を密にし、地域に根ざした福祉施設としての働きを進める。 ・行政・警察・消防等の組織との関係を図り、施設運営のための理解を図り、危機管理等を強化する。 ・保育園関係団体(私立保育園連盟・日本聖公会保育連盟・キリスト教保育連盟)等の連携を進める。 <p>「健全財政の確立」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積算基礎より支出見直しを実施し、健全な財政運営に努める。 			

施設	高齢者総合福祉施設 オリンピア神戸西	報告者	施設長 西川 晃
事業目標	1.その人らしい暮らしの実現 2.財政基盤の確立 3.光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践 4.小規模多機能ケアの確立 5.地域の拠点になる		
概要	<p>オリンピア神戸西も多くの方の祈りと支えにより、新たなチャレンジへの6年目を迎える。今年度のチャレンジとして、隣接地、明石への事業拡大である。西区の地域に根付いたように、明石での新たな開拓にも、前向きにチャレンジしていく。特に、既存の施設の各部門への良い刺激になるよう、全体の底上げにも繋げていきたい。</p> <p>“その人らしい”暮らしの実現という理念に基づいた取り組みを大いに挑戦し、地域と光朔会を担う事業展開を試みていきたい。西区を中心にした、まだまだ未開の地がある出先機関で、地域に密着した形で、今までに積み重ねてきた地域との歩み、また培ってきた地域との協働を生かし、地域への文化の発信をしていく。地域と共に成長し、活気溢れる街作りの一端を担うために、有事に備えてキチンと準備の出来る、魅力あるチームを目指していく。</p>		
事業計画	<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中で、長期に渡って質の高いケアを提供することによって、「その人らしい」暮らしを住み慣れた地域で送ることが出来る。また、おひとりおひとりの声に耳を傾けることにより、その方に寄り添え、一緒にチャレンジすることにより、実現が可能になる。この実践を通して、本来持てるおひとりおひとりの力を引き出し、人材確保の厳しい現実を逆転の発想で乗り越え、人件費支出を、少しでも理念の実現に代替え出来るようにしていく。職員が1名増えるぐらいの有効実現を目指す。</p> <p>2. 財政基盤の確立:制度改定による介護報酬の減収という厳しい状況を逆手に取り、ピンチをチャンスに変える前向きなチャレンジを実践していく。特に、地域との繋がりを生かせる、地域の資源を生かせる取り組みにより、支出削減を見出していく。また、登録利用者数の見直しや体制加算の見直しによる収入の増加、スケールメリットを生かした流通ルートの見直しや助成金の申請等、新たな収入源を見出していく。</p> <p>3. 光朔会と地域との架け橋を担うノーマライゼーションに基づいた実践:地域との実践を生かしたノーマライゼーションをこれからも発信し続ける。地域交流室を活用し定期的な講演会やコンサートを実施、地域の方が今まで以上に当施設に気軽に入って来られる仕組みを作り、誰でもが友人の家に遊びに来られるような場所にし、地域の高齢者ケアの拠点となると共に、喫茶コーナーが憩いの場となるような地域貢献を担って行きたい。就労支援事業所との連携により、地域で障害者が普通に暮らせる仕組みを地域住民と共に構築し、お困りの方が一人でも多く、光朔会での関わりを通して、輝けるよう社会貢献の一端も担っていきたい。</p> <p>4. 小規模多機能ケアの確立:利用者おひとりおひとりに対して、施設でのケアで完結するのではなく、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。四季に応じたイベントや地産地消を実感できる提案をする。その人に合わせた、柔軟な発想を選択し、リーダーを中心とした世代を超えた意見の交換の場や新しいケアでしか見出せない実践を重ねていく。その取り組みを新しい人材の確保と育成のPR及び活動に繋いでいく。</p> <p>5. 地域の拠点になる:隣接の公民館や児童館・保育園等の各機関との協働、神戸市を運営母体とする他業種と社会福祉法人光朔会の当事業所との相互補完的な新たな取り組みを見出す。特に、次世代交流や地域交流を通して、差別の心を育まない街作りの一端を担い、地域交流スペースの有力な活用方法を見出す。喫茶の売り上げを30%アップ、毎月、100,000円以上の売り上げ可能な喫茶の運営を目指すべく、チャレンジを楽しむ。</p>		

事業計画

2015年度

施設	オリンピック神戸西	部門	小規模多機能ホーム	報告者	西川 晃
事業目標	1. その人らしい暮らしの実現 2. 財政基盤の確立 3. スタッフと資質向上とチャレンジ 4. 地域の拠点作り				
事業計画					
<p>1. その人らしい暮らしの実現:利用者おひとりおひとりに対し、馴染みの環境・人間関係の中での在宅生活の継続を支援していく。画一的なケアになることなく、おひとりおひとりの声に耳を傾け、その方に寄り添い、一緒にチャレンジすることによって、その方の希望される生活を実現していく。長期に渡って質の高いケアを提供していく。また、本来持てる力を引き出す関わり、何か一つ役割を担って頂き、生活の主役として輝ける関わりを実践していく。</p> <p>2. 財政基盤の確立:収入目標 75,000千円。前年度比 2.5%増を目指す。登録者数と体制加算の見直しを行う。在宅生活の継続支援、保険外サービスも含め、ニーズに合わせた受け入れを積極的に実践していく。</p> <p>3. スタッフの資質向上とチャレンジ:リーダーを中心に、ビジョンを掲げ、人を幸せにするには、まず、自分たちが幸せになる為、人間性を豊にする学びの時を大切にする。四季に応じたイベントや地産地消を実感できる提案、柔軟な発想に基づいた世代を超えた意見交換、新しいケアでしか見出せない経験を積み重ねていく。</p> <p>4. 地域の拠点作り:高齢者の相談窓口としての充実と、友人の家に遊びに行くような感覚で、自由に入出入り出来る環境作りを心掛ける。文化の発信や、高齢者の生き甲斐作りをも担える新しい拠点作りにチャレンジしていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピック神戸西	部門	特別養護老人ホーム	報告者	櫻井 敬介
事業目標	1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える。 2. 財政基盤の確立。 3. 人材育成とスタッフの定着。 4. 地域共生。				
事業計画					
<p>1. 理念を遵守し、入居者の思いを叶える。:オリンピックの理念を遵守し、入居者お一人お一人がいつまでも自分らしく生活できる入居者主体のケアを行い、入居者自身が自己選択・自己決定・自己実現できる環境を提供する。また、入居者の思いを実現するお手伝いをすることで、入居者・スタッフが感動を共有し、いつまでも未来に向かって挑戦し、成長し続けるチームを目指す。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用収入目標104,478千円。平均要介護度3.9~4.0。入院者が出た際には、空床ショートでの迅速な対応を行う。年間利用率99.0%を目標とする。</p> <p>3. 人材育成とスタッフの定着:スタッフ各自が目標を設定し、内部・外部の研修や勉強会の参加、各種資格取得等に積極的に取り組み、ケアの質の向上を目指す。また、リーダーが中心となり、ユニットケアを実践することでチーム力を高め、スタッフの定着に繋がるようにする。</p> <p>4. 地域共生:地域の一員として、特別養護老人ホームが有する資源やノウハウを活用することで、地域の高齢者の相談窓口としてのポジションを確立し、また、施設と地域、双方向の交流を行うことで「まちづくり」に貢献する。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピック神戸西	部門	居宅介護支援事業所	報告者	芦田 智子
事業目標	1. 地域住民をはじめ高齢者からの介護相談窓口としての役割 2. 他部門と地域との協働 3. 居宅介護支援の質の向上 4. 財政基盤の安定				
事業計画					
<p>1. 地域住民をはじめ高齢者からの介護相談窓口としての役割:公平中立な視点に立ち、保険・医療・福祉の関係機関や民間諸団体とのネットワークの構築を増進する。その上で民生委員や圏域地域包括支援センター等との連携を密にすることで介護相談窓口としての役割を担い、地域住民や高齢者が安心して住み慣れた自宅で生活を継続できる環境を整える。</p> <p>2. 他部門と地域との協働:地域の高齢者に対して様々な相談に柔軟に対応し、他部門と協働することで困難事例へも積極的な関与により地域から信頼を得る。他部門と連携しながら神戸西の機能を発信し地域との積極的な関わりを持ち神戸西の機能を最大限に活用し地域に貢献できる活動を行う。</p> <p>3. 居宅介護支援の質の向上:様々な事例に関わりを持ってきたが、利用者が住み慣れた自宅で生活を継続するためには幅広い知識とより柔軟な対応が行えるように各種研修・講習会に参加し自らを研鑽する。</p> <p>4. 財政基盤の安定:常勤ケアマネ2名での稼働を基本とし年度平均して95%以上の稼働率が維持することでよい安定した収入を確保しつつ必要経費を最小限にとどめ余剰分を明石居宅に配分できるように効率的に業務を行う。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピック神戸西	部門	LSA	報告者	西川 晃
事業目標	1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立 2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開 3. 財政基盤の確立 4. 今津高層住宅の自治会との協働				
事業計画					
<p>1. シルバーハウジングの相談窓口として、位置付けの確立:シルバーハウジング入居者への支援。生活相談、安否確認、コミュニティづくりに役立つ支援。一時的な家事支援、緊急時の対応、関係機関等との連携、その他、日常生活に必要な支援。</p> <p>2. 光朔会と地域との架け橋を担う事業展開:神戸市の委託事業所としての、公正且つ中立的な業務運営を確保する。公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体とのネットワークを構築し、高齢者をはじめとした地域住民が「いくつになっても安心して生活できる地域」づくりに努める。専門的な立場からの社会資源の情報提供の発信源を担う。法人独自の企画・運営を実践していく。</p> <p>3. 財政基盤の確立:利用収入目標 4,100千円。コミュニティづくり事業を積極的に行う。</p> <p>4. 今津高層住宅の自治会との協働:シルバーハイツが入っている県営の今津高層住宅自治会との協働により、シルバーハイツの入居者が、いつまでも"その人らしい"暮らしを実現するための支援を行っていく。社会資源の情報提供等をはじめ、神戸西の協力を仰ぎながら、自治会担当者を支援・協力し、繋がり礎を深めていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア明石	部門	居宅介護支援事業所	報告者	西川 晃
事業目標	1. 地域の高齢者の総合相談窓口としての位置付けの定着 2. 財政基盤の確立 3. 他部門との連携により地域との架け橋となる活動を行う				
事業計画	<p>1. 地域の高齢者の総合相談窓口としての位置付けの定着: 公平中立な視点を持ち、保険・医療・福祉の関係諸機関や民間の諸団体とネットワークを構築していく。他部門との協力、多職種協働により、高齢者をはじめとする地域住民が「いくつになっても自宅で安心して生活できる地域」づくりを支援する事業者との独自性のある活動を実践する。専門的な立場からの社会資源の情報提供の発信源や社会資源の構築にも参与する。</p> <p>2. 財政基盤の確立: はじめての明石市への進出・事業拡大に際し、人材の確保と、新しい施設を誘致するにふさわしい、地域の開拓、健全運営を目指す。年度内の最終目標利用者数 要介護者 20名 要支援者 8名。</p> <p>3. 他部門との連携により地域との架け橋となる活動を行う: 地域の高齢者に対して行われている様々な活動に参加する事により、居宅介護支援事業所オリンピア明石の存在を定着させていく。その上で、スケールメリットを生かして多角的な視点と多くの専門的なスキルを用いて、地域に混在する多くの困難事例に対応していく。高齢者総合福祉施設オリンピア神戸西が後ろ盾し、圏域地域包括支援センターとの連携を密にしながら、地域の活性化にも繋がるような前向きな取り組みにもチャレンジする。将来、人の希望に繋がる事業になることを目指していく。</p>				

施設	都児童館	報告者	館長 森下 洋子
事業目標	1. 児童の健全な育成 2. 子育てと家庭の支援 3. 放課後児童クラブ(学童保育)の充実 4. 地域への貢献 5. 職員の資質の向上		
概要			
<p>社会福祉法人光朔会のもとで4年目を迎える2015年度、児童館では二つの放課後児童クラブを担うこととなる。オリンピアの理念の基、利用者ひとりひとりに心の目を向け、常に一对一の目で接することを基本とし、児童館としてできることにひとつひとつ丁寧に取り組んでいく。放課後児童クラブにおけるニーズにしっかりと応え、安心して過ごせる場を提供するとともに、児童館と六甲学童コーナーを一体的に運営することでプラスとなる側面を積極的に取り入れる。また、親子の継続的利用につながるようにプログラム内容の充実を図るとともに、保護者の方に安心して預けて頂けるような信頼関係を築く努力をする。先を見据え、児童館が今まで以上に成長できるように職員の更なる意識向上を図る。オリンピアの取り組みについて館内掲示をはじめとして、地域に積極的に発信していく。</p>			
事業計画			
1. 児童の健全な育成			
<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや行事を通して異年齢児・地域の方との交流を図り、お互いを尊重することの大切さを年齢に応じて理解できるように声をかけながら見守っていく。また、集団モラルを学べるように配慮する。 ・思いやりの心や自主性・創造性・社会性を高め、子どもの心と体の健康増進を図るために日常の活動に加え毎月の行事や季節の行事を行う。それぞれの職員が企画した新たな発想を大切に、幅広いものにする。 			
2. 子育てと家庭の支援			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における子育てと家庭の支援のために下記の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・すこやかクラブ ・キッズクラブ ・なかよしひろば(赤ちゃんタイム・1歳児タイム) ・親子のふれあい講座 ・児童館子育て相談 ・子育てコミュニティ育成事業 ・子育て母親対象講座 ・子育て母親のリフレッシュ講座 			
3. 放課後児童クラブ(学童保育)の充実			
<ul style="list-style-type: none"> ・適切な遊び及び家庭的な雰囲気をもった生活の場を提供し、その健全な育成を図るとともに、事業の実施を通して保護者の仕事と子育ての両立を支援する。 ・都児童館と六甲学童コーナーのそれぞれの特色を活かせるようにし、一般来館児童との交流を積極的に図る。 			
4. 地域への貢献			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援・家庭支援につながる地域社会を目指すため、今までの地域交流事業を土台とし、温かい雰囲気の中での場の提供に努め、それぞれが輝けるニーズに合ったプログラムを積極的に取り入れていく。 			
5. 職員の資質の向上			
<ul style="list-style-type: none"> ・光朔会オリンピアの一員であり、児童館職員であるという自覚と責任をもって行動する。 ・利用者と接するときは年齢にかかわらず、オリンピアの理念に則って、目線をあわせ、個人を尊重した対応をする。来て良かったと感じてもらえるように笑顔で気持ちの良い挨拶をいつでもできるようにする。 ・職員ひとりひとりが地域の方、利用者の方により信頼される人材となるために、初心を忘れることなく素直さと自己の目標をもち、それぞれが仕事面のみならず人としても成長できるようにする。 ・トライやるウィーク、ワークキャンプの受け入れで、職員自らも生徒を通して学びをするチャンスととらえる。 			

施設	障害者就労支援センター オリムピア岩屋	報告者	管理者 阪田 昌三
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 利用者ニーズに合わせた支援 3. 農作業の技術向上及び生産体制の充実 4. 地域における役割 5. 新たな事業展開に向けて		
概要	<p>「石の上にも三年」のことわざがあるようにようやく事業所として安定した運営のスタートラインに乗ることができ、これからは活動内容をより充実させていく1年でありたい。そのためには様々な障害の方へのニーズをスタッフが把握し必要な支援を行っていくこと。日中活動においては利用者数が増員する中で、作業量のバランスと定番の仕事が確立していくことが求められる。障害福祉の活動を地域に根ざしたものになるように岩屋からアピールしていく。</p> <p>また、就労継続支援B型が2か所あることで、それぞれの特色を出すことで事業所の良さを強調していく。</p> <p>長期的なビジョンとして新たな取り組みや事業展開への模索していく。</p>		
事業計画	<p>1. 財政基盤の確立: 利用者の増員と余剰人員をもって安定した運営を目指す。本来、就労継続支援B型は就労への通過事業であり、移行状況により利用者の減少が予測されるため余剰人員を確保する。また、介護保険制度と同様に障害福祉制度も国費による財源であって社会情勢に合わせて報酬の見直しがあり、今回は就労継続支援事業に関して減収幅は少ないものの、今後の傾向にアンテナを張っておく。</p> <p>2. 利用者ニーズに合わせた支援: 障害の状況が異なる方が利用し、支援学校卒業から一般企業での就労経験がある方まで社会経験の幅が大きく、利用するまでの経過が多様化している。また、「移行支援へステップ」が目的であるが「生活習慣の構築」「利用者自身の集う・居場所」などのニーズが多くなってきている。それぞれのニーズにスタッフ一人ひとりが寄り添い、作業だけでなく休憩時間やイベントなど余暇の過ごし方も「その人らしい」日中活動が充実したものになるようにしていく。</p> <p>3. 農作業の技術向上及び生産体制の充実: 丹波篠山の地で新たに畑を確保し、生産状況の拡充を進めていく。人材の確保や職員の役割分担、利用者の参加等体制面の強化を行い、昨年よりスケジュールと生産数の安定化を図る。丹波ブランドの価値を市場に出していけるように、地域など販売ブース、オリムピア内イベントを通じて販路を拡大していく。また、他部門、他機関との連携により担い手や作業の効率化も同時に進めていく。</p> <p>利用者も丹波へ行く機会を設定し、作物を育てる楽しみや喜びを共感し、やりがいを感じてもらえる試み。</p> <p>4. 地域における役割: 地域におけるオリムピアの位置づけは確実に大きなものになっており、障害者地域生活支援センターから期待度も大きく、相談支援や自立支援協議会など地域における障害福祉の役割を担っていく。</p> <p>自治会、町内会からの交流も増え、イベントなどの参加もある中で地域に根ざした事業所をより一層目指す。</p> <p>障害だけでなく、介護、保育を含めてオリムピア全体の情報発信を行う。</p> <p>5. 新たな事業展開に向けて: 平成26年4月より福祉サービスを利用する方すべてに福祉サービス等利用計画の策定が義務づけられ計画相談支援事業が開始されているが、事業所数が少ない、きめ細やかな相談支援が実施できていないなど不十分な面が多く、地域のニーズは十分にあるので今後サービス展開を踏まえ、計画相談支援事業への参入を模索していく。</p> <p>法人内での障害者雇用、事業所外作業、職場体験実習など外に向けての事業フィールドを拡充していく。</p>		

施設	発達障害者サポートセンター オリμπア住吉	報告者	センター長 藤原 一秀
事業目標	1. 「障害者就労支援事業」の充実 2. 利用者数の安定化 3. 活動内容の広報強化 4. 商品の地域連携による販売拡大 5. 職員の障害特性理解と支援技術の向上		
概要			
<p>発達障害者サポートセンターとして、発達障害の方が不安無く、持っている能力を十分に発揮できるよう、職員はその様々な特性を学び、コミュニケーション技術を向上し、環境を整備、ICT機器を活用した支援を行う。一般就労へ移行する準備としての短期利用も増えてきたことにより、継続的な利用者募集が必要な課題である。長期利用の方も、短期利用の方にも充実した活動ができるプログラムを実施し、多くの方に広報することにより継続的な利用者募集を行う。支援学校の卒業生が、学校で学んできたことを社会の場で活かせるように、学校関係者との連携を強化し、様々な形で交流を行う。地域の施設との関係を密にし、商品の開発や販売方法について連携を深めていく。</p>			
事業計画			
<p>1. 様々な特性のある発達障害の方に対し十分な支援を実現するために、現場の状況に直結した職員研修・作業環境の整備・作業手順の明確化を行う。特に現在の様々な障害の方が利用している環境では不利になりがちな視覚・聴覚過敏の方への理解を深め、環境を整備し、安心して利用できる場を確保する。</p> <p>2. 一般就労でも必要な経験ができる場であり、また就労経験の少ない方や生活リズムの調整の場を求めている方にとっても有効な場であるために、利用者の状況に合わせて時間や作業環境を検討し、より細分化した作業内容とその伝達技術を向上させる。特に利用者自身で確認できるチェック表や工程表などの視覚支援を充実させる。</p> <p>3. 広報については、日々の活動の内容紹介と、定期的なイベントに重点を置く。得意なことが大きく異なる方々が役割を分担し、作業方法を工夫しながらひとつの製品を作る日常の活動を一番のPRポイントとして、ホームページ等で継続的に広報する。また利用者自身の視点から情報発信できるように利用者のICT活用も充実させる。</p> <p>月一回のタブレット教室や、御影クラッセでの定期的な販売会等を継続的に広報を行う。関係者・機関にはできるだけ直接訪問し、チラシ配布をきっかけに幅広い内容で情報交換を行う。</p> <p>4. 作業については、お菓子の詰め合わせと、絵はがきのピッキング作業で十分な量が確保できるようになった。このような定番の作業は変化や変更を苦手とする方には重要であるため、ひとつひとつの作業をさらに細分化し安心して作業ができる環境を作る。木工については、手先が不器用であっても、オリジナル商品のアイデアを考えるなど様々な役割分担でこれまで取り組んできた。これまで協力いただいていた林業や木育関係の方とさらに連携して、オリジナル商品の充実を図る。今年度はオリμπア岩屋開所当初から誘われていた「ウッドスタート宣言」(東京おもちゃ美術館主催)が行えるよう取り組んで行く。</p> <p>5. 昨年度の「魔法のプロジェクト」(東京大学先端科学技術研究センター主催)参加を期に、タブレットなどのICT活用について、さらに見学や講演依頼など協力を求められるようになった。ICT活用は学校に於いては取り組みが増えてきたが、就労支援の場面に於いてはこれからである。これからも障害のある方の生活を支えるツールとして活用できるよう先駆的な取り組みを行っていく。</p>			

施設	サービス付き高齢者向け住宅オリンピア鶴甲	報告者	落 昌之
事業目標	1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供 2. 財政基盤の確立 3. 広報への取り組み 4. 人材の確保・育成 5. 安全への配慮・対策		
概要	<p>サービス付き高齢者向け住宅の入居要件としては60歳以上の方で、非該当の方から要介護・認知症の方等、これまで自宅で不安を抱えて生活を送って来られた方々に対して、生活の質はこれまで通りのライフスタイルを続けて頂き、不安な部分に対しては24時間の見守りや状況把握、生活支援サービス及び食事や家事等の支援によりその人らしい生活の場を送って頂く。外出同行サービスや生涯学習講座や趣味等のサークル活動にて豊かな時間と安心した暮らしを提供していく。訪問介護事業・通所介護事業を併設しオリンピアで培った質の高いサービスを住宅部門は基より地域の方々へ提供していく。また、cafe olympiaやデイルームの空き時間を利用して、地域の方々との交流を図り、地域基盤を確立していく事に努める。</p>		
事業計画	<p>1. オリンピアの理念を活かしたサービス提供:これまで自宅で送ってこられた生活と変わらないライフスタイルを継続して行く事ができるよう、お一人おひとりに寄り添ったサービスを行って行き「私らしい」暮らしを応援していく。入居者の皆様に「ココを選んでよかった。」と思っけて頂けるよう安心できる生活環境を提供する。</p> <p>2. 財政基盤の確立:利用者の皆様に「安心して暮らし続けたい。」とのご要望に応える為には、活動の基となる財政基盤を安定させることが必要不可欠であり、常時20室の利用を確保していく必要がある。常時利用者が住んでいく状態を維持していくために、入退去の状況を見極めていき、退去者が出た場合でも、スムーズに入居ができるよう待機者の獲得に努めて行く。収支の状況も的確に把握していき、収入と収支のバランスを取っていく事で、コストを意識し収益の確保を行って行く。</p> <p>併設の訪問介護事業及び通所介護事業に関しては、居宅介護支援事業所等に継続したPR活動を行い良好な関係性を構築していき利用者の紹介に繋げていく。</p> <p>3. 広報への取り組み:オリンピア鶴甲を今後も幅広く知って頂くために広報活動を積極的に行って行く。地域へのポスティングは継続していき、地域の介護サービス事業所等への訪問活動やcaféolympiaやデイルームの空き時間を活用していき地域の方々への交流の場としていく。また、各種講演会やイベントの開催により様々な情報を鶴甲から情報を発信していく。</p> <p>4. 人材の確保・育成:利用者の増加に伴い人材の確保が必要である事から人材の確保を行って行く。事業を円滑に進めて行くためには、人材の育成が必要不可欠であり、オリンピアの理念を実践してしていくために研修の機会を設けていく。スタッフ全てが目標を持ち実践していく事で個々のスキルアップに努めて行く。また、職場環境を整備していき、スタッフが働く意欲を高め、オリンピアのスタッフであるとの誇りと責任感を持ってもらう。</p> <p>5. 安全への配慮・対策:平素から火災発生の防止に万全を期し、防災関係設備、機器の整備点検を十分に行い、年2回の避難防災訓練を実施し、消防署・地域の協力を得て利用者の安全対策に努める。また、非常災害時においても最大限に利用者の安全を確保を図るとともに、地域の防災拠点としての役割を担う。</p>		

事業計画

2015年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	サ高住	報告者	松下 泰啓
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. 入居者へのサービス向上 3. 建物の維持管理				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立: 20室満室の状態を継続していくことで、サ高住・ヘルパー・デイサービスの3部門の収入が安定できる。これを続けるために入居者の皆さんへのサービス向上と、居宅介護支援事業所やイベント等でPR活動を行い鶴甲の認知度をより高めていき、入居待機者の確保に努める。また、水光熱費や事務に係わる経費などを確認していき、無駄を省きコストバランスを保っていく。</p> <p>2. 入居者へのサービス向上: 入居された皆さんがオリンピック鶴甲で楽しく生活を続けて行くための方策として、入居者の皆様の希望や思いを実現するために、スタッフ一人ひとりが細かに対応していく。レクリエーション等も充実させて、楽しみのある生活を送って頂くように努める。</p> <p>3. 建物の維持管理: 今年7月で1年を迎えるにあたり、1年保証の期間内に不具合箇所を見つけて補修していく。特に入居者様が利用されるリビング、廊下、トイレなど重点的に点検していきたい。利用者が安心して暮らすことができ、危険箇所等がないよう建物の維持管理を行っていく。</p>					

社会福祉法人光朔会

事業計画

2015年度

施設	オリンピック鶴甲	部門	ヘルパーステーション	報告者	鈴木 栄治
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立: 予算計画に基づき、毎月確実に新規利用者を獲得していく。利用者を獲得していくためにこれまで行ってきた法人内の居宅や地域の居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター等へのPR活動を引き続き行っていく。又、サ高住内でのイベントも計画しこれらのチラシなどを用いて効果的な営業を行っていく。</p> <p>2. サービスの質の向上: 業務内容を精査し、円滑に業務が行えるよう日々のスケジュールの構築と人員の確保を行い体制を整えていく。全てのご利用者様の『ニーズ』や『想い』に寄り添いお一人お一人が楽しく過ごすことができるようサービスを提供させていただく。</p> <p>3. 人材の確保・育成: サービス提供数に応じて人材を確保する必要がある。また、サービス内容の質の向上の為、研修の機会を設ける。スタッフ全てが目標を持ち実践していく事で個々のスキルアップに努めて行く。職場環境の整備も行い、スタッフが働く意欲を高めて、オリンピックの理念を実践していくと共にオリンピックのスタッフである事の誇りと責任感を持ってもらう。</p>					

社会福祉法人光朔会

施設	オリンピア鶴甲	部門	デイサービス	報告者	落 昌之
事業目標	1. 財政基盤の確立 2. サービスの質の向上 3. 人材の確保・育成				
事業計画					
<p>1. 財政基盤の確立:小規模事業所の上限数の利用者を速やかに獲得していく。利用者を獲得していくために法人内の居宅や地域の居宅介護支援事業所、あんしんすこやかセンター等へのPR活動を継続的に行う。各種講演会やイベント等も開催していき、地域の方々等へもオリンピア鶴甲を周知して頂き認知度を高める事で新規利用者の獲得を行う。</p> <p>2. サービスの質の向上:業務内容を精査精査していき、円滑に業務が行えるよう体制を整えていく。全てのご利用者様の「ニーズ」や「想い」に寄り添い、お一人おひとりが楽しく過ごすことができるようご利用者様との係わりを持って行く。</p> <p>3. 人材の確保・育成:利用者数に応じてサービスの質の観点から人材を確保していく必要がある。また、利用者のサービスの質を高めるために、研修の機会を設ける。スタッフ全てが目標を持ち実践していく事で個々のスキルアップに努めて行く。職場環境の整備も行い、スタッフが働く意欲を高めて、オリンピアの理念を実践していくと共にオリンピアのスタッフである事の誇りと責任感を持ってもらう。</p>					

施設	グループホーム オリμπシア篠原	報告者	管理者 長谷 順二
事業目標	1. 「認知症ケア」の確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 新規プロジェクトへの挑戦 5. 人材の育成		
概要	<p>オリμπシア篠原の初年度、「高齢者認知症になっても住み慣れた地域で安心してこれまで通りの生活を送るお手伝い」。このオリμπシアがグループホームとして目指す認知症ケアを地域密着として浸透させていくことが計画の柱となる。そのため、スタート時点から保険法改定による困難はあるが、介護保険収入を確保しつつ、助成金などのチャレンジが欠かせない。財政基盤を安定させていき、計画的な職員の資格習得、内外の研修への参加、他の拠点との合同訓練により人材を育成していく。オリμπシアの理念を理解し、実践していくことが、地域との関係を築き、地域から必要とされる認知症ケアの拠点への確かな道と考える。積極的に、地域、もしくは大きなPR活動を行う。初年度は地域の皆様にオリμπシア篠原を知っていただき、地域の仲間になることを目指していく。</p>		
事業計画	<p>1. 「認知症ケア」の確立: 小規模多機能ケアを確立してきた他の拠点に習い、「その人らしい」生活を住み慣れた地域で提供していきたい。オリμπシア篠原は、現在はグループホーム部門だけであるが、同区のオリμπシア灘、オリア鶴甲で運営しているデイサービス、ホームヘルプと連携していき、小規模多機能ケアの確立を目指す。そして、ケアに人を合わせるのではなく、おひとりおひとりのお気持ちや環境、人生に敬意を持ち、全てのご入居者がこれまで通りの生活を送れるようにプランを作成する。皆様が訴えていただいたことには必ず私達に原因があるという姿勢を忘れずに、その人を知っていく努力を行う。</p> <p>2. 地域密着の浸透: 同区ではオリμπシア灘がその存在を確立させている。同じオリμπシアとして、より地域で助けとなっていく拠点となりたい。積極的に地域行事に参加し、或いは地域の皆様に多機能スペースなども利用していただき、地域に開かれた施設となっていく。適正な運営推進会議を行い、地域の一員、拠り所となっていく。</p> <p>3. 財政基盤の確立: 初年度から介護保険法改定によるグループホームの収入ダウンが見込まれる。だからこそ、新たなチャレンジを自分達に義務付け、状況に左右されない確かな財政基盤を確立していく。内容としては、助成金へのチャレンジが大きなものとなる。達成のために、行動に移し、助成金で求められている内容を実行していけるだけの体制を整えていきたい。また、初年度ということで支出がかさむと予測されるが、無駄な支出は慎み、長い目で急がない備品や器具を整えていく。</p> <p>4. 新規プロジェクトへの挑戦: 実現までに時間はかかると思われるが、若年性認知症介護について、篠原を拠点として在宅で悩まれているご家庭の助けとなっていきたい。地域密着の一環として始めていき、ゆくゆくは篠原の活動がオリμπシア、更には世間に向かって発信していける若年性認知症介護のモデルケースとなっていくことを目指す。多機能スペースで若年性認知症介護の会などを定期的に行っていただくことから始めていく。</p> <p>5. 人材の育成: 介護福祉士などの主要資格だけでなく、認知症実践者研修、ユニットリーダー育成研修など計画を立てて、多くの職員が受講していく。職員ひとりひとりの質を上げるためには、介護職としての成長だけでは限界が来ると予測される。より大きな視野を持つことで、日常のケアで正しい選択ができるようになる。法人の研修で理念の遵守、光朔会の歴史を学び、オリμπシアが行うべきケアが見えてくる。高いレベルでの「やりがい」を持ち、高いモチベーションを持って成長していける人材育成を行う。</p>		

施設	オリンピック篠原	部門	グループホーム	報告者		管理者	長谷 順二
事業目標	1. 認知症ケアの確立 2. 地域密着の浸透 3. 財政基盤の確立 4. 人材の育成						
事業計画	<p>1. 認知症ケアの確立:「その人らしい」生活の実現を追及し、おひとりおひとりの個別ケアを実現する。ご本人が歩まれてきた人生、お気持ちや環境に敬意を持ち、全てのご入居者がこれまで通りの生活を送るお手伝いをさせていただきます。パーソンセンタードケアを基盤にした、オリンピックの新たな認知症ケアの拠点として確立する。</p> <p>2. 地域密着の浸透:初年度となる2015年は、地域住民にオリンピック篠原を知っていただき、認知症ケアでお困りの方々が相談できる場所となっていく。そのため、地域行事への積極的な参加、交流を行い、地域の皆様がオリンピック篠原へ足を運んでいただけるように取り組んでいく。</p> <p>3. 財政基盤の確立:介護保険法改定などの状況変化に対応していくために、新たなチャレンジをしていくことが必要である。また、収支を考えた運営を行い、無駄を省いていくことで堅実な財政基盤を確立する。</p> <p>4. 人材の育成:一からの職員も多く、既存の施設から多くを学ばなければならない。法人内外の研修への参加だけでなく、オリンピック篠原から学びの場所を作っていく環境を整える。資格習得へ向けて、計画的に職員を受講させていき、全体の層を上げることでオリンピック篠原のレベルを上げていく。</p>						